

## クロアチア語を学ぶ愉しみ——言葉の由来を知ること

石田信一

外国語を学ばさい、言葉の由来を知ることには大きな愉しみでもある。その国・地域の歴史的・文化的背景を理解するうえで役に立つし、何よりも、純粹に好奇心をそそられるではないか。

では、まず問題。クロアチア語で「楽園の果実」と言うとは、何のことだろうか？

答えはトマト。標準語ではライチツァ (*rajica*) と呼ばれており、これは「楽園」を意味するライ (*raj*) から派生したものである。日常会話では、そのままパラダイズ (*paradijz*) とも呼ばれることもある。オーストリア・ドイツ語でトマトを意味するパラダイス・アプフェル (*Paradiesäpfel*) からの借用である。いかにも旧約聖書でアダムとイヴが食べてしまった「禁断の果実」か何かのようだが、新大陸からヨーロッパにトマトが伝わった時に、リングと色や形が似ているためにこう呼ばれるようになったらしい。このほか、クロアチア語にはポミドローラ (*Pomidorola*) という表現もあるが、これはイタリア語のポモド

ーロ (*pomodoro*) から借用したもので、本来の意味は「黄金のリング」である。英語でも、トマトを同じようにゴールデン・アップル (*golden apple*) と呼ぶことがある。ちなみに、トマト (*tomato*) 自体の語源は、原産地である新大陸の言葉で「膨らむもの」であるらしい。

トマトはナス科の植物だが、ナスはクロアチア語でパトリジヤン (*patidzan*) という。では、「赤ナス」(*crveni patidzan*) とは何か。しつこいようだが、これもトマトである。蛇足ながら、日本語でも「赤ナス」といえばトマトの別名であるのだが、現在ではあまり一般的とはいえない。

さて、紹介が遅れたが、クロアチア語は旧ユーゴスラヴィア連邦を構成していたクロアチア共和国で使用されている言語である。隣国ボスニア・ヘルツェゴヴィナ共和国のクロアチア人同胞とあわせても、話者人口は五〇〇万に満たない。セルビア語とは非常に近い関係にあり、かつて「セルビア・クロアチア

語」と呼ばれていたこともある。実際、クロアチア語とセルビア語の違いは日常会話レベルでは目立ったものではなく、いくつかの単語だけを注意すれば、意思疎通に困難をきたすということはない。ただし、クロアチア語が日本人にもなじみのあるラテン文字（いわゆるローマ字）で表記されるのに対して、セルビア語は一般的にロシア語などと同じキリル文字で表記されており、このことが両言語の決定的な違いとなっている。とくにクロアチア人にとって、キリル文字で読み書きすることには相当の抵抗があるらしい。

クロアチア語を習い始めた頃、あまり意識せずに『外国人のためのセルビア・クロアチア語』(Serbo-Croat for Foreigners)という英語で書かれた教科書を使っていた。この教科書はラテン文字で書かれており、その点ではクロアチア的ともいえるが、使われている文法や語彙は明らかにセルビア的であった。お互いに理解できないわけではないにせよ、やはり一方に特徴的な語彙や表現が確かに存在することを、少しずつ認識するようになったのである。やがてクロアチア人が自分たちの言語を「セルビア・クロアチア語」などと呼んだりしないこともわかった。「セルビア・クロアチア語」という表現にはセルビア的であるという含みがあり、それを避ける場合、「クロアチア・セルビア語」あるいは単にクロアチア語と呼ぶしかなかったのである。クロアチア語は、セルビア語との差別化を進める理由もあつ

て、歴史的に「言語純化」への志向が強かった。例えば、月名セルビア語では、一月から順に、ヤヌアル (Januar)、『フェブルアル (Februar)』、『マルト (Mart)』、『アプリル (April)』、『マイ (Maj)』、『ユーニ (Juni)』、『ユーリ (Juli)』、『アウグスト (Avgust)』、『セプテンバル (Septembar)』、『オクトバル (Oktoibar)』、『ノヴェンバル (Novembar)』、『デツェンバル (Decembar)』などと呼ぶ。英語とは発音こそ異なるものの、綴りはほとんど同じであることがわかる。古代ローマ時代の命名法に由来し、ヨーロッパに広く行き渡っている呼び方だから、当然ともいえる。

しかし、クロアチア語はまったく違う。一月から順に、シイエチャニ (Sijecanj)、『ヴェリヤチャ (Veljaca)』、『オジュヤク (Ozujak)』、『トラヴァニ (Travanj)』、『スヴィバニ (Svibanj)』、『パニ (Lipanj)』、『スルパニ (Srpanj)』、『コロヴォス (Kolovoz)』、『ルヤン (Rujan)』、『リストパド (Listopad)』、『ストウデニ (Studenti)』、『プロシナツ (Prosinac)』。これらはスラヴ諸民族の「民間暦」起源の名称で、ポーランド語、チェコ語、ウクライナ語にもその一部が残っている。例えば、一月のシイエチャニは「伐採月」、四月のトラヴァニは「若草月」、六月のリバニは「菩提樹月」、十月のリストパドは「落葉月」を意味する。十一月のストウデニは「寒い」を意味する形容詞でもあるので、十一月に急に冷え込んだりすると、新聞の見出しにストウデニ・ストウデニ (Studenti Studenti) という決まり文句があらわれる

ことになる。ともあれ、これらは日本語の「如月」や「師走」のような季節感のある表現だとは思いますが、さすがに覚えるまでが大変である。(より簡単な)セルビア語の表現を使っても実用上は問題ないのだが、クロアチア人ではあまり良い顔をされないことを覚悟しておくべきだろう。

こうした月名に比べると、曜日名はクロアチア語とセルビア語でほとんど変わらない。日曜は「仕事をしない日」ネデイエリヤ (nedjelja)、月曜は「仕事をしない日の翌日」ポネデイエリヤク (ponedjeljak)、火曜は「第二の日」ウートラク (utorak)、水曜は「真中の日」スリエダ (srijeda)、木曜は「第四の日」チェトヴルタク (četvrtak)、金曜は「第五の日」ペータク (petak)、土曜は「サバトの日」スポタ (subota) となる。キリスト教に由来する土曜を除くと、かなり機械的(順番どおりに命名されていることがわかる。なお、「日」はダン (dan)、「週」はティエダン (tjedan) だが、「月」はミエセツ (mjesec) で、天体の月と同じ単語である(英語やドイツ語では、month/Monatとmoon/Mondは明らかに区別されているのだが)。

最後に、クロアチア語を学ぼうという人のために。文法的には複雑で、三つの「性」や六つの「格」があり、必ずしも入門しやすい外国語とはいえないクロアチア語だが、それを学ぶ環境は以前に比べてずっと良くなっている。中島由美『CDエタ

スプレス・セルビア語・クロアチア語』(白水社)や三谷恵子『クロアチア語ハンドブック』(大学書林)など日本語で書かれた実用レベルの教科書もある。残念ながら、本格的な日本語との対訳辞典は出ていないが、英語との対訳辞典では、ランゲンシャイト社のユニヴァーサル・デイクシヨナリー・シリーズの『クロアチア語』(Langenscheidt Universal Croatian Dictionary)やジェリコ・ブヤス編『クロアチア語・英語大辞典』(Veliki hrvatsko-engleski rječnik)がお勧め。